

研究部門の取り組み



創薬研究所

医薬品の探索・創薬研究
栃木県下都賀郡野木町野木2399-1



開発研究所

医薬品の研究開発
栃木県下都賀郡野木町野木1848

創薬研究所・開発研究所は栃木県最南端の野木町に立地し、渡良瀬川・思川・巴波川の三つの河川が合流する渡良瀬遊水地に隣接しています。渡良瀬遊水地は、東京ドーム708個分に相当する日本最大の遊水地であり、首都圏有数の動植物の宝庫として、また人々のレクリエーションスポットとして大きな役割を果たしています。

環境では、全ての研究所において、自然の博物館と言われている渡良瀬遊水地周辺の汚染防止に協力すると共に、地域社会環境・地球環境の保全に努める活動を推進しています。

労働安全衛生では、そこで働く人々が安心して研究開発に打ち込めるよう、安全で快適な職場環境の整備に向け活動しています。

1. 主な取り組み

環 境

【1. 研究事業所共通】

- 創薬研究・開発研究における効率化推進による
 - ◎ CO₂の削減
 - ◎ 廃棄物の削減と適正管理及びリサイクルの推進
- 方法及び代替品の技術検討による化学物質の
 - ◎ 使用量削減
 - ◎ 大気汚染防止
- 節水や事務用紙の使用量削減、再生紙の使用による省資源化



【2. 創薬研究所】

- 節電に努め、省エネ化を図る
- 業務の効率化による資源の節減
- 地域社会と共同し、環境の保全への貢献

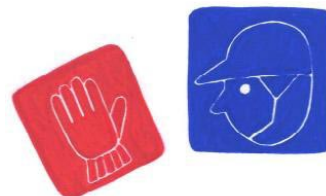
【3. 開発研究所】

- 技術改良による省資源化への取り組み
- 地下水使用量削減による地盤沈下の防止
- 地域社会とのコミュニケーション推進

労働安全衛生

【研究事業所共通】

1. 休業労災 ZERO を目指す（休業労働災害：1 日以上欠勤をカウント）
 - ヒヤリ・ハット、ニアミス事例の職場での報告と EHS 推進委員会での水平展開
 - 安全行動の啓蒙と教育実施
 - 事業場における労働者の心の健康づくり
2. 危険評価点数の低減
 - ◆ Aランク→Bランク以下（目標案件の100%）
 - ◆ Bランク→Cランク以下（目標案件の50%）
 - 危険評価点数削減のための各種施策実施
 - <実施例>
 - 設備改善や保護具着用による化学物質の人体への障害防止
 - 保護具着用と手順書作成・教育による動物使用時の傷害防止
 - 転落防止柵・手すりなどの設置による傷害防止
 - ウォーキングラリーへの参加による健康増進 等
3. 棚・ロッカー類の耐震対策の実施



2. 2009 年度活動結果

環 境

【1. 創薬研究所】

- CO₂ 排出量の削減と廃棄物の適正管理に取り組みました。
 - ◎ ノーマイカーデイによる CO₂ 削減 2008 年度削減量：10.5 トン→2009 年度削減量：11.9 トン
 - ◎ 廃棄物総排出量 2005 年度：78.5 トン、2008 年度 74 トン→2009 年度 62 トン
廃棄物の削減及び適正管理により 2005 年度比より総排出量で減量することができました。
 - ◎ 使用試薬等（プラスミド等）のデータベース化をはかり、効率的且つ有効な使用を行いました。

【2. 開発研究所】

- 化学物質使用品目数の改善、廃棄物総排出量の抑制に取り組みました。
 - ◎ 化学物質使用品目：PRTR 5 品目、その他化合物 7 品目の改善を行いました。
 - ◎ 廃棄物総排出量の抑制 2009 年度：74 トン（うちリサイクル 44 トン）となりました。
 - ◎ 地盤沈下の防止のため、地下水の取水を完全に停止しました。

【3. その他（研究事業所共通）】

- 下記について取り組み、いずれも年間目標を達成しました。
 - ◎ 事務用紙の使用量削減
 - ◎ グリーン用品の使用推進
 - ◎ 特定フロン使用機器の代替促進（使用機器残り 1 個）

労働安全衛生

【研究事業所全体】

1. 労働災害

◎ 2009 年度：目標（休業労災ゼロ）を達成できました。

2. 危険点数の削減（2009 年度対策実施件数）

	Aランク→Bランク以下	Bランク→Cランク以下
創薬研究所	対象項目なし	18 項目のうち 17 項目達成
開発研究所	対象項目なし	6 項目のうち 6 項目達成

3. 2010 年度の取り組み（研究部門重点目標）

環 境

【1. 創薬研究所】

□ CO₂ 排出量の削減

◎ 車通勤による CO₂ 排出量を抑制（2009 年度 110 トン → 2010 年度 100 トン）
（ノーマイカーデイの実施による排出量の抑制）

□ 化合物等の適正管理と廃棄物削減

◎ 化合物・試薬等のデータベース化による使用量抑制
◎ 廃棄物埋立処分率削減 5%以下とする

【2. 開発研究所】

□ 業務改善による省資源化

□ CO₂ 排出量抑制（2009 年度 3600 トン → 2010 年度 3500 トン）

□ PRTR・廃棄物発生量抑制

◎ PRTR 排出量削減：2009 年度目標 8 トン以下 → 2010 年度 6 トン以下
◎ 廃棄物発生量の削減：2009 年度目標 100 トン以下 → 2010 年度 90 トン以下

□ 社会貢献活動の推進

労働安全衛生

【研究事業所共通】

- 休業労災 ZERO の実現
- 危険評価点数の低減
 - ◆ Aランク→Bランク以下（目標案件の100%）
 - ◆ Bランク→Cランク以下（目標案件の50%）
- ワークライフバランスによる心身の健康

（A, B, Cランクについて）

労働安全衛生上危険側面と思われるものを特定し（拾い出し）、その特定要素ごとに3段階の点数評価をします。（5点：重大・多い・高い、3点：普通・中程度、1点：軽微・少ない・低い）

その評価合計点数からA、B、Cランクを設定します。

評価合計点数が 11～15点

Aランク：著しい危険側面として早急な改善が必要な危険側面

評価合計点数が 6～10点

Bランク：危険ではあるが早急な改善が必要でない危険側面

評価合計点数が 3～5点

Cランク：危険性が微小であり特に配慮を要しない危険側面

製造部門の取り組み



能代工場

医薬品原薬・医薬品の製造
秋田県能代市松原1



岡谷工場

医薬品の製造
長野県岡谷市湖畔1-14-3

能代工場は1995年に操業開始しました。秋田県北部沿岸地域に立地し、世界遺産の白神山地と一級河川の米代川、そして海の幸を提供してくれる日本海と自然環境に恵まれた環境です。2006年4月には「人に優しく、環境に優しい」をコンセプトとした新製剤棟を新設し主力工場として稼動しました。省エネルギーと地球環境に配慮した活動を目指し、当地の自然を守っていくことが当工場の社会的使命と考えています。

岡谷工場は1948年に操業開始し、天竜川の源となる長野県諏訪湖畔に位置しています。蓼科高原、白樺湖、車山、霧ヶ峰高原、諏訪湖など四季の彩りに恵まれた、澄んだ空気と水と緑にあふれ、自然環境に恵まれた岡谷市の一角にあります。諏訪湖周辺では諏訪湖の水質保全と周辺の美化を守る「諏訪湖アダプトプログラム」活動に参加するなど、地域とのコミュニケーションと社会への貢献に努めています。

1. 主な取り組み

環 境

【両工場共通】

1. 電力・燃料の削減（生産性向上による無駄の排除）
 - 照明・空調機器などの運転方法改善
 - 省エネタイプの製造設備の導入
 - ユーティリティの検討
2. 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
3. CO₂ 排出量の削減
 - コ・ジェネ設備導入等による効果向上
 - 自家発電装置及びボイラーの効率的な運転
 - ノーマイカーデイの実施やアイドリングストップ運動の実施
 - マイバッグによるレジ袋の削減
4. 工場周辺の美化活動による環境保全



労働安全衛生

【両工場共通】

1. 休業労災 ZERO を目指す（休業労働災害：1日以上の欠勤をカウント）

- ヒヤリ・ハット、ニアミス事例の職場での報告と EHS 推進委員会での水平展開
- 安全行動の啓蒙と教育実施
- 当社以外の作業従事者（請負社員・派遣社員）へ、社員と同レベルの安全教育実施

2. 危険評価点数の低減

- ◆ Aランク→Bランク以下（目標案件の100%）
- ◆ Bランク→Cランク以下（目標案件の50%）
- 危険評価点数削減のための各種施策実施

<実施例>

保護具着用と手順書作成・教育による機械等操作時の傷害防止
 転倒防止柵・手すりなどの設置による傷害防止
 安全体操・教育などによる VDT 作業障害の防止
 ウォーキングラリーへの参加による健康増進 等



3. 棚・ロッカー類の耐震対策の実施

2. 2009 年度活動結果

環 境

【1. 能代工場】

- 製造ロットあたりの CO₂ 排出量の抑制

目標：7 t / 1 ロット以下とする → 2009 年度実績：5.0 t / 1 ロット
 ユーティリティ設備の電力使用量削減
 ボイラー用灯油の使用量削減
 変圧器をトップランナー方式の変圧器に変更し電力量及び CO₂ の削減

- 廃棄物発生量の削減

目標：2006 年度（発生量 570 t）比 50 t 削減 →
 91 t 削減（2009 年度発生量 663 t）
 フロービン洗浄室（乾燥）で使用しているフロービン F タイプの
 洗浄方法を見直し、洗浄水量を減少させる。
 エタノールの使用量（洗浄）削減

- 工場周辺地域の美化活動

風の松原を守る市民ボランティア大会
 能代クリーンアップごみゼロ運動



環境

【2. 岡谷工場】 基準年度：2006年度

□ 電気使用量の削減

目標：2006年度（使用量 262万 kwh）比 98万 kwh 削減／
→ 108万 kwh 削減（2009年度使用量 154万 kwh）

□ 廃棄物量の削減

目標：2008年度（発生量 456 t）比 210 t 削減
→ 274 t 削減（2009年度発生量 182 t）

廃棄物の削減とリサイクル化の促進を最重点の取り組みとして実施し、
年間目標を大きく上回ることができました。

□ 諏訪湖周辺の美化活動 活動者：延べ 274名

諏訪湖アダプトプログラム 8回／年活動

岡谷湖畔公園清掃活動 4日／年活動

労働安全衛生

【両工場共通】

1. 労働災害

- ◎ 2009年度：目標（休業労災ゼロ）に対し、
能代工場では、休業労災ZEROを実現でき、目標を達成できた。
岡谷工場において休業を伴わない労災が1件発生しました。
＜休業を伴わない労災1件＞
・ガラスで指を切る。

再発防止策を実施し、工場内の推進委員会で事故の報告を行い、
また両工場で情報共有を行い、水平展開を図りました。

2. 危険点数の削減（2009年度対策実施件数）

	Aランク→Bランク以下	Bランク→Cランク以下
能代工場	該当なし	16項目全て達成
岡谷工場	1項目達成	38項目全て達成

3. 2010 年度の取り組み（製造部門重点目標）

環 境

【 1. 能代工場 】

- 製造ロットあたりの CO₂ 排出抑制
 - ◎ 6.5 t / ロット以下とする
- 廃棄物発生量削減 (2009 年度 : 660 トン → 2010 年度 : 650 トン)
- 工場周辺地域の美化活動及び社会貢献活動の推進

【 2. 岡谷工場 】

- 電気使用量と廃棄物量の削減
 - ◎ 電気使用量の削減 : 2009 年度 152 万 kwh → 2010 年度 142.5 万 kwh
 - ◎ 廃棄物量の削減 : 2009 年度 175 トン → 2010 年度 166 トン
- 諏訪湖周辺の美化活動

労働安全衛生

【 両工場共通 】

- 休業労災 ZERO の実現
- 危険評価点数の低減
 - ◆ Aランク→Bランク以下 (目標案件の 100%)
 - ◆ Bランク→Cランク以下 (目標案件の 50%)



営業部門の取り組み

全国 13 支店、87 営業所 (2009 年度末現在)

当社では 2004 年 7 月に業界初の支店・営業所での環境マネジメントシステム ISO14001 及び、労働安全衛生マネジメント規格 OHSAS18001 の認証を取得しました。

MR 活動においても、環境と労働安全衛生に配慮しています。



1. 主な取り組み

環 境

1. 販売促進資料のオンデマンド指向 (必要時に必要数をMRが発注できる仕組み) での効率化
2. ガソリン使用量削減
 - 運転時の啓蒙 (荷物積下ろし時のアイドリングストップ、必要最小限のDI資料の搭載 効率的運転で燃費向上を啓蒙 等)
 - エコカー、ハイブリッドカーの積極的な導入
(弊社エコカーの定義: 2000 年基準 75% 低減車以上)
3. 紙の使用量抑制 (裏紙使用、複合印刷機による両面・縮小印刷 等)
4. 電気使用量の削減 (空調温度設定: 冬季 21℃、夏季 27℃、パソコンのこまめなオフ、昼休み消灯 等)

労働安全衛生

1. 自動車事故防止対策

- 洗車の励行および管理者による運転免許証確認
- 交通安全キャンペーンの継続、全国交通安全運動と連動した取り組み
- 意識高揚のための交通安全ステッカー
- 交通安全ビデオによる搭乗者教育
- ヒヤリ・ハット報告の積極的提出と情報共有
- 新入社員向け特別運転教習訓練
- 豪雪地帯への転勤者への特別運転訓練



毎年新入社員研修の一環として、特別運転教習訓練を実施しています。

2. 感染予防対策

医療機関訪問が主な業務なため感染予防対策を徹底しています。

- 帰社時の手洗い・うがいの励行
- 冬季のインフルエンザワクチン接種 (一部補助) による感染予防対策実施
- リスク管理委員会の感染予防通達の徹底

3. その他

- 防災対策 (防災訓練の実施、避難経路図の掲示と教育 等)
- 健康増進策 (ウォーキング・キャンペーン、健康相談、メンタルヘルス対策 等)

2. 2009 年度活動結果

環 境

- MR行動管理システムを改良し、オンデマンド指向での販売促進資料の有効活用と、在庫回転率向上を行ないました。
- ガソリン使用量削減として、社有車はほぼエコカーとなっており、ハイブリッドカーは、2010年7月現在182台導入しております。
エコドライブの励行など燃費向上を啓発した結果、2008年度燃費約12.3km/ℓ→2009年度12.5km/ℓに向上しました。
- 用紙利用について、2008年度681万枚に対し、2009年度744万枚と増加しました。
MR増員および製品プロモーションによる資料増加が原因ですが、今後とも裏紙使用や複合印刷機による両面・縮小印刷により、用紙の無駄をなくすよう努めます。
(MR一人あたりは、2008年度9,565枚→2009年度10,192枚と増加しました。)

労働安全衛生

車両事故は、2008年度172件に対し、2009年度186件と大幅に増加となりました。主な原因は、約半数が駐車場内での接触で、次いで交差点での追突等が占めています。各支店で目標件数を定め、事故削減活動に取り組んできましたが、結果的には事故を減らすことができませんでした。2010年度は継続した事故削減活動各支店への直接指導、運転記録証明を基にした指導、リヤコーナースエンサー導入、入社内定者への啓発等)と共に、ドライブレコーダの導入や運転教習時間を増やすなど、車両事故防止策に特化して取り組みます。

3. 2010 年度の取り組み (営業部門重点目標)

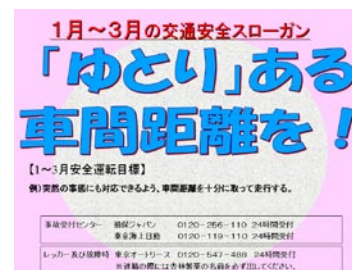
環 境

- 効率的運転で燃費向上(目標:13.0km/ℓ以上)
 - 雑・無駄運転の防止、エコドライブの励行(荷物積み下ろし時のアイドリングストップ)
- ウリトス販売によるCO₂削減効果換算(水・電気の使用削減)
- キョーリンスマイルプログラムとの連動(エコバッグ、ペットボトルキャップ収集等)
(キョーリンスマイルプログラム:全社的に取り組む社会貢献活動)



労働安全衛生

- 車両事故発生件数の削減
 - 支店別削減目標による取り組み(全社で108件以下/年)
 - 上司による車両点検
 - 支店・営業所での安全施策実施
- メンタルヘルスに関する啓発



各MRに配布し、車内掲示して意識付けを行っています。

本社の取り組み

◆ ————— ◆
 本社においては、支店営業所とともに 2004 年 7 月に環境
 マネジメントシステム規格 ISO14001 及び、労働安全衛生
 マネジメント規格 OHSAS18001 の認証を取得しました。
 ◆ ————— ◆



本社

東京都千代田区神田駿河台2-5

1. 主な取り組み

環 境

1. ゴミ分別の徹底 (分別の徹底によりリサイクル化の促進)
2. 電気使用量の削減
 - 空調温度 (空調温度を冬季 21℃、夏季 27℃に設定)
 - 昼休みのパソコン電源オフと消灯
 - 階段の使用促進 (エレベーターは極力使用しない)
3. 紙の使用量を把握・削減、エコペーパー・裏紙使用の利用促進

労働安全衛生

1. 社内での感染を予防
 - 食堂に手洗い薬・トイレにうがい薬設置
 - 冬季のインフルエンザワクチン接種 (一部補助) による感染予防対策実施
2. パソコンの作業障害 (目の疲れ、腰痛) を削減
 - VDT作業姿勢のチェックポイントのポスター掲示
 - 1時間に1度は目を休めるように啓発
3. 防災対策
 - 防災訓練 (7月・1月)、防災対策用品整備、設備・器具等の定期点検
4. 気分リフレッシュによる快適な職場環境を実現
 - 毎週末フリーウェアデーと年間を通してノーネクタイの実施
 - 有給休暇活用によるリフレッシュとノー残業デイ設定 (週1回以上の定時退社を推奨)



2. 2009 年度活動結果

環 境

1. 本社電力使用量は 99 万 kwh となり、前年度を 2 万 kwh 上回りました。
今後も引き続き電気使用量の削減のため、空調の温度設定や消灯の徹底などの活動により電力使用量を削減していきます。
2. 用紙使用量は 324 万枚と、前年度を 64 万枚上回りました。
理由は、新薬プロモーションや各種申請書類での増加によるものです。今後とも裏紙使用や複合印刷機による両面・縮小印刷により、用紙の無駄をなくすよう努めます。

労働安全衛生

1. 本社ビル内に設置した AED 装置の使用方法について
28 名が神田消防署にて普通救命講習を受講しました。
2. メンタルヘルスについての各種基礎知識を発信し周知
しました。
3. 新型インフルエンザ流行への対応として、マスクの購入・
備蓄や、手洗い・うがいの励行、消毒液の使用促進を
実施しました。



3. 2010 年度の取り組み（本社部門重点目標）

環 境

- オフィスの効率的運用
 - 用紙・電気の使用量削減
 - 事務用品リサイクル推進
- キョーリンスマイルプログラムとの連動
(エコバッグ、ペットボトルキャップ収集等)
(キョーリンスマイルプログラム：全社的に取り組む社会貢献活動)



労働安全衛生

- 心身の健康への自覚喚起
 - ノー残業デいの推奨…定時退社／週 1 日以上
 - メンタルヘルスの啓発
 - メタボ対策の啓発
(エレベータは極力使用しない／階段にカロリー表示)



その他全社での取り組み

1. メンタルヘルスへの取り組み

メンタルヘルスの取り組みについては、新入社員教育やイントラネットにより、各自が心の健康を維持するための基本的な知識習得や情報提供を進めており、外部 EAP とも契約して、社員およびご家族の方が気軽に相談できる体制を整えております。

また、管理者研修のカリキュラムとして、管理者の部下に対する配慮や注意すべき点、部下が心に不調を来たした場合の対処法を身につけ予防に努めています。そして、社員に疾患が発生したときには、所属部署・人事部・産業医・専門医と連携をとり、健康の回復、職場復帰に努めています。



2. 子育て支援対策

当社は、社員の仕事と家庭（子育て等）が両立しやすい環境をつくるために、様々な施策を実施しています。また、仕事と家庭（子育て等）を両立する社員を職場全体で理解し、協力し合ってサポートしていただける体制作りにも取り組んでいます。

1. 支援金

出産育児支援金・・・70万円

入学支援金・・・小・中学校30万円、高校・高専・短大40万円、大学80万円

2. 育児休業制度

子どもが1歳6ヶ月に達するまで、または1歳到達直後の3月末日まで休業可能

3. 出産・育児に配慮した柔軟な勤務制度

短時間勤務制度・・・妊娠中および子どもが3歳到達直後の3月末日まで、勤務時間を30分単位2時間まで短縮可能

所定外労働の免除・・・子どもが3歳到達直後の3月末日まで

4. 子の看護休暇制度

小学6年生までの子で、看護・予防接種・健康診断が必要な場合、子1人につき年間5日、2人以上のとき年間10日取得可能

積立年休（有給）を利用可能

5. 配偶者出産休暇

配偶者の出産時に2日の特別有給休暇が取得可能

6. 再雇用（ジョブ・リターン）制度

妊娠・出産・育児のため退職した社員の再雇用

3. 健康保険組合の保険事業

当社は労働安全衛生活動の全社展開に当たり、杏林健康保険組合の保健事業と連携を取り、従業員や家族の健康管理のための成人病検診、主婦検診等、下記健康増進策を図りました。

1. 検診項目の充実

- 生活習慣病検診・・・胃部検査（X線検査、ペプシノーゲン検査）、腹部超音波検査、大腸癌検査、眼底検査、前立腺検査（PSA検査）、喀痰検査
- 婦人科検診・・・子宮頸部細胞診、乳房検査
- 被扶養者検診・・・生活習慣病検診（喀痰検査除く）及び婦人科検診に同じ
- 特定健康診査・特定保健指導・・・40歳以上の社員・被扶養者の検診及び保健指導
- ファミリー健康相談・・・育児、急病、慢性病、精神衛生等「電話健康相談」と専門医を紹介する「ベストドクターズ・サービス」
- インフルエンザ予防接種補助・・・予防接種の一部費用を補助（社員及び家族）

2. 疾病予防面

- 禁煙キャンペーン・・・65日間連続禁煙者に「達成賞」贈呈
- ウォーキング・キャンペーン・・・目標達成者に「記念品」贈呈
- プール補助事業・・・施設と特約を結び、従業員・家族のプール利用を促進

3. 在宅療養支援面

- 保健師派遣事業・・・在宅お年寄りを対象に訪問し、健康相談、福祉情報の提供

